

第五條 不具、癢疾、傷痕、疾病等ノ爲歩行シ能ハサルトキハ其ノ陸路旅行ニ付テハ一里毎ニ車

馬賃五十錢ヲ支給ス但シ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

前項ノ場合ニ於テハ陸路雜費ヲ支給セス

第六條 宿泊料ハ一夜ニ付二圓ヲ支給ス但シ水路旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

第七條 食卓料ハ船賃ノ中ニ食費ヲ含マサルトキ又ハ官用ノ船舶ニ依リ旅行スル場合ニ於テ官ヨ

リ賄ヲ爲ササルトキハ一夜ニ付一圓ヲ支給ス

第八條 車馬賃ヲ請求セムトスルトキハ不具、癢疾、傷痕、疾病ノ爲歩行シ能ハサル旨ノ醫師ノ

診斷書ヲ請求書ニ添附スヘシ

第九條 旅行中死亡シタルトキハ其ノ居住地ニ至ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス此ノ場合

ニ於テハ陸路旅行ニ付テハ第五條ノ例ニ依ル

第十條 内國旅費規則第五條及第七條ノ規定ハ本令ニ依ル旅費ノ支給ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和五年五月一日内務省令第十五號)

本令ハ昭和五年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

二十四 健康保險特別會計法

(大正十五年三月二十九日法律第二十六號)  
(改正昭和四年三月二十八日法律第十二號)

第一條 健康保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料、一般會計ヨリ繰入ルル金額、積立金ヨリ生スル收入、借入金及

附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險給付費、保健施設費、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借

入金ノ利子、事業取扱費、營繕費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條 前條ノ一般會計ヨリ繰入ルル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル但シ被保險者二人ニ付

一年平均二圓ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第五條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲ス

コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ保險料ヲ以テ保險給付費及保健施設費ヲ支辨スル能ハサル場合ニ借入ルルモノヲ除クノ外最高五百萬圓トス

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲シ又ハ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金又ハ繰替金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第九條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和四年三月二十八日法律第十二號)

本法ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

### 二十五 健康保險特別會計規則

(昭和元年十二月二十九日勅令第四號 改正昭和四年四月一日勅令第三十五號)

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細録ヲ添附スベシ

第二條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣社會局長官ニ命ジテ之ヲ執行セシムベシ但シ他ノ官吏ニ命ジテ其ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第三條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額及一時借入金ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍不足アルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ對シ一時借入金ニ代ヘ國庫餘裕金ノ繰替使用ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第五條 保險料收入ノ年度所屬ハ其ノ保險料ヲ負擔スベキ義務ノ發生シタル日ノ屬スル年度ニ依ル

第六條 毎年度出納ノ完結迄ニ收入済又ハ支出済ト爲ラザルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歳入又ハ歳出トス

第七條 削除

第八條 健康保險特別會計法第三條第一項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ付テハ健康保險法施行令第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第九條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十條 社會局長官ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十一條 支出官ハ毎月支出済額報告書ヲ調製シ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十二條 社會局長官ハ支出済額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出済額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十三條 毎年度ノ歳入ノ收入済額ヨリ歳出ノ支出済額及翌年度繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ

之ヲ積立金ニ組入ルベシ

第十四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十五條 社會局ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ健康保險ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第十六條 社會局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スベシ

第十七條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スベシ

第十八條 社會局ハ歳出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スベシ

第十九條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

健康保險特別會計法規則

附 則 (昭和四年四月一日勅令第三十五號)

本令ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

### 二十六 健康保險特別會計事務取扱規程

昭和元年十二月三十日  
昭 和 内 務 省 訓 令 第 三 十 二 號  
改 正 昭 和 四 年 七 月 三 十 一 日  
昭 和 九 年 五 月 二 十 三 日 内 務 省 訓 令 第 八 號

社 會 局  
府 廳  
縣 (東京府ヲ除ク)  
北海道廳健康保險出張所

第一條 健康保險特別會計ニ關スル事務ハ本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條 歳入ノ徵收ニ關シテハ社會局長官、北海道廳長官、北海道廳出張所長及府縣知事 (東京府ニ在リテハ總務視監)ヲ歳入徵收官トス  
以下同シ)

第三條 歳入徵收官ハ保險料、督促手数料及延滞金ノ徵收ニ付テハ徵收補助簿ヲ備ヘ各納人別ニ納人ノ住所氏名、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額及調定濟、收入濟又ハ不納缺

損處分ノ年月日其ノ他必要ナル事項ヲ登記スヘシ

前項ノ徵收補助簿ハ之ヲ各郡市區別ニ編綴シ其ノ末尾ニ計ヲ附スヘシ

第四條 歳入徵收官ハ領收濟通知書 (出納官吏拂込ノ分ヲ除ク)、領收濟報告書 (本規程第十五條ノ規定ニ依リ現金領收證書ノ原符ヲ以テ代用スル場合ニ於テハ其ノ原符) 及歳入組入報告書ニ基キ收入濟額日計表ヲ作製スベシ

第五條 歳入徵收官日本銀行ヨリ領收濟通知書及歳入組入報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ額ヲ支出官ニ通知スヘシ

第六條 歳入徵收官ハ調定超過ニ依ル過納又ハ調定外誤納ヲ生シタル場合ニ於テハ過誤納額整理簿ヲ備ヘ年度、科目、金額、事由、納人ノ住所氏名、還付又ハ充當ノ額末其ノ他必要ナル事項ヲ登記スヘシ

第七條 歳入徵收官ハ健康保險法第十一條ノ二第一項ノ規定ニ依リ滞納處分ヲ市町村ニ請求シタル場合ニ於テハ處分請求滞納者整理簿ヲ備ヘ年度、科目、金額、納期、請求市町村、滞納者ノ住所氏名、督促狀發付年月日及指定期限其ノ他必要ナル事項ヲ登記シ處理ノ額末ヲ明瞭ナラシムヘシ

第八條 歳入徵收官不納缺損處分ヲ爲シタルモノニ付テハ納人ノ住所氏名、科目、金額、事由及保險料ニ付テハ所屬年月等ヲ記載シタル書類ヲ徵收報告書ニ添付スヘシ

第九條 歳入徴收官ハ會計規則第七十三條ニ依リ歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ會計規則第七十五條ニ依リ其ノ長官ヨリ年三回（自四月至八月、自九月至十二月、自一月至四月各期間分）毎翌月十五日迄ニ會計検査院ニ送付スヘシ

第九條ノ二 歳入徴收官ハ出納官吏、郵便局又ハ日本銀行ニ於テ現金收納後納入告知書又ハ納付書ニ記載セル年度、所管、會計名又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ出納官吏、取經郵便局又ハ日本銀行ニ之ガ訂正ヲ請求スベシ

第十條 保管金取扱規程第十六條及政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ主務官廳ハ社會局、北海道廳、北海道廳出張所及府縣（東京府ニ在リテハ警視廳）トス

第十一條 毎年度ノ支拂豫算ハ社會局長官、北海道廳長官、北海道廳出張所長及府縣知事ニ之ヲ令達ス

第十二條 支出官（社會局長官タル）ハ歳入金ノ受入ニ依ル支拂元受高ヲ社會局長官タル支出官ノ支拂元受高ニ轉換ヲ爲シ其ノ旨直ニ社會局長官ニ通知スヘシ但シ差當リ支拂ニ必要ナル資金ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 支出官（社會局長官タル）當該年度最終ノ小切手ヲ振出シタルトキハ直ニ其ノ支拂元受高ノ殘額ヲ社會局長官タル支出官ノ支拂元受高ニ轉換シ其ノ金額及當該年度ノ支出濟總額ヲ社會

局長官ニ通知スヘシ

第十四條 北海道廳長官、北海道廳出張所長及府縣知事ハ別記様式ニ依リ歳入歳出決定計算報告書ヲ調製シ翌年度六月十五日迄ニ之ヲ社會局長官ニ送付スヘシ

社會局長官ハ前項ノ報告書及自己ノ取扱ニ依ル分（前項別記様式ニ依ル）ヲ取經メ歳入歳出決定計算報告書ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ之ヲ内務大臣ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏納入告知書ニ依ラスシテ現金ヲ領收シタル場合ニ於ケル領收濟報告書ハ現金領收書ノ原符ヲ以テ代用スヘシ

第十六條 出納官吏ノ帳簿及金櫃ノ検査員及立會人ハ出納官吏ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十七條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ大正十一年四月内務省訓令第二號會計事務取扱規程ニ依ル但シ同令第十二條及第十七條ニ内務大臣トアルハ社會局長官トス

附則

本規程ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

（昭和四年七月三十一日内務省訓令第十一號）

附則

（昭和九年五月二十三日内務省訓令第八號）

本令昭和九年五月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

別記様式

昭和何年度健康保険特別會計歳入歳出決定計算報告書

歳入

科	目	調定済額	収入済額	不納缺損額	収入未済額	備考
以	何 (款)					
何	何 (項)					
何	何 (目)					
計	計					

備考

社會局ニ於テ總報告書調製ノ場合ハ豫算額及豫算額ニ比シ収入済額ノ差額ヲ設置スルコト

歳出

科	目	豫算額	△流用増減額	豫算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	備考
何	何 (款)							
何	何 (項)							
計	何 (目)							

備考

流用増減額、不用額及翌年度繰越額アル場合ハ各目ニ付其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スルコト

**二十七 保険料其ノ他健康保険法ノ規定ニ依ル徴收金滞納處分ノ爲差押ヘタル物品取扱方ノ件**

(昭和四年八月一日  
内務省調令第十七號)

社會局 廳府 縣 (東京府ヲ除ク)  
北海道廳出張所

保険料其他健康保険法ノ規定ニ依ル徴收金滞納處分ノ爲差押ヘタル物品ニシテ其應ニ於テ保管スルモノハ物品會計規則ヲ準用スルコトヲ指定ス

**二十八 健康保険積立金運用規則 (昭和五年二月二十七日  
勅令第三十四號)**

第一條 健康保険特別會計法ニ依ル積立金ハ内務大臣之ヲ管理スベシ

第二條 積立金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徴收金滞納處分ノ爲差押ヘタル物品取扱方ノ件 健康保險積立金運用規則

第三條 所管大臣ハ部下ノ官吏ニ命ジテ積立金ノ出納ヲ執行セシムルコトヲ得  
第四條 積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムベシ

附一則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

預金部資金運用規則

改正昭和五年四月一日勅令第五十五號  
昭和六年八月二十七日勅令第三十五號  
昭和七年十一月二十六日勅令第二百二十九號  
昭和七年十一月勅令第三百三十三號

第一條 預金部資金ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ運用スヘシ

- 一 國債ノ應募、引受若ハ買入又ハ一般會計若ハ特別會計ニ對スル貸付
- 二 地方債若ハ健康保險組合債ノ應募、引受若ハ買入又ハ地方公共團體若ハ健康保險組合ニ對スル貸付
- 三 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ債權ヲ發行スルモノノ發行ニ係ル債券ノ應募、引受若ハ買入又ハ此等ノ法人ニ對スル三年內ノ貸付
- 四 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニシテ社債ヲ發行セサルモノニ對スル貸付
- 五 外國政府ノ發行ニ係ル國債ノ應募又ハ買入

第六 日本銀行ニ對スル在外指定預金

第二條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ之ヲ預金部資金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ計畫ニ付追加又ハ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第三條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金運用報告書ヲ調製シ年度經過後四月內ニ之ヲ預金部資金運用委員會ニ提出スヘシ

前項ノ報告書ニハ當該年度ニ於ケル預金部資金運用ノ狀況及運用資産ノ異動ニ關スル重要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外預金部資金ノ運用ノ爲必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 預金部資金運用委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大藏大臣ノ諮問ニ應ジ預金部資金ノ運用ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第六條 預金部資金運用委員會ハ預金部資金ノ運用ニ關シ大藏大臣ニ建議スルコトヲ得

第七條 預金部資金運用委員會ハ會長一人及委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス  
臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第八條 會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

預金部資金運用規則

第九條 委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 大藏政務次官
  - 二 大藏次官
  - 三 關係各廳高等官
  - 四 會計検査院部長
  - 五 日本銀行總裁
  - 六 學識經驗アル者
- 前項第三號、第四號及第六號ニ掲クル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第十條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス
- 第十一條 預金部資金運用委員會ニ幹事ヲ置ク

幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏部内高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命シ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十二條 預金部資金運用委員會ニ書記ヲ置ク

書記ハ大藏部内判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

(附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ運用中ノ預金部資金ニシテ其ノ運用方法カ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ同條ノ規定ニ拘ラス仍其ノ運用方法ニ依ルコトヲ得

第二十條 對東洋銀行中五五五號

預金部資金運用規則



### 二十九 健康保險法中改正法律

(昭和九年三月二十六日)  
法律 第十 三 號

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場
- 二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ工場
- 三 左ニ掲グル事業ニシテ常時五人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ
  - (イ) 物ノ製造、加工、選別、包装、修理又ハ解體ノ事業
  - (ロ) 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業
  - (ハ) 電氣ノ傳導又ハ動力ノ發生若ハ傳導ノ事業
  - (ニ) 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業
  - (ホ) (ニ)ニ掲グルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ勅令ヲ

#### 以テ指定スルモノ

第十四條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

- 前條ノ工場、事業場又ハ事業ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業ニ付亦同ジ
- 一 前條第三號ノ事業ニシテ常時五人未滿ノ労働者ヲ使用スルモノ
  - 二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ
  - 三 貨物積卸ノ事業
  - 四 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業
- 第十六條 第十三條ノ工場又ハ事業ガ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ其ノ工場又ハ事業ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

#### 附則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法實施ノ爲ニ豫メ必要ナル事項ニ關シテハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正十一年四月二十日法律第七十號健康保險法抄錄

第十三條 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條第一項

前條ニ規定スル工場及事業場ヲ降クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業又之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

- 一 礦物ノ採掘又ハ採取ノ事業
  - 二 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業
  - 三 電氣又ハ動力ノ發生變壓又ハ傳導ノ事業
  - 四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ
  - 五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業
  - 六 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ
  - 七 貨物積卸ノ事業
  - 八 前各號ニ掲クルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業
- 第十六條 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ工場ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

昭和四年九月十四日印刷  
 昭和五年五月十九日發行  
 昭和九年五月十六日增補再版  
 昭和九年七月十五日出版

定價金三拾錢

發行者

財團法人

産業福利協會

代表者

蒲生俊文

印刷人

杉田彌太郎

印刷所

東京市麴町區麴町五丁目二番地  
杉田屋印刷所

不許複製

發行所

財團法人

産業福利協會

東京市麴町區外櫻田町内務省社會局内  
電話 銀座座 四四一四  
振替口座 東京 七四四四七

國營口湖東京十四四四子  
新津 廣瀬 田一 國一 國一

養子湖 西人 養業臨海會

明曜湖 津田 星 明曜湖

明曜人 津田 廣 太 湖

升秀峯 龍 主 對 文

鏡行峯 西人 養業臨海會

不 辨 類

一 養業臨海會  
二 明曜湖  
三 升秀峯  
四 鏡行峯  
五 養業臨海會  
六 明曜湖  
七 明曜湖  
八 明曜湖  
九 明曜湖  
十 明曜湖

宝貴金三益録

